

平成27年度 りんご技術情報（第1号）

大崎農業改良普及センター
TEL：0229-91-0726
平成27年4月

<りんごの生育状況と今後の管理>

1 生育状況

りんごの発芽期については、品種により差が見られますが、色麻町南山の「ふじ」の発芽期は平年と比較して9日早く確認されました（表1）。気象庁の1ヶ月予報（3月26日発表：4月27日までの見通し）において、平均気温は高い確率が60%とされており、予報通り経過した場合には開花も早まる見込みです（平年の開花始めは5月5日）。開花前の薬剤散布や凍霜害対策への準備を万全に行いましょう。

表1 りんごの生育状況（4月1日） 調査地点：色麻町

品種		発芽期
ふじ	本年	3月30日
	平年	4月7日
	平年差	9日早い

2 凍霜害への対策

今後は生育が進み、花器が低温に対して弱い状態になります（表2）。凍霜害を受けやすい場所では、下記の対策を参考に、適切な管理を行いましょう。また、凍霜害が予想される場合には气象台から霜注意報が発表されますので、情報に注意してください。

表2 りんごが凍害を受ける危険限界温度

樹種（品種）	硬い蕾	膨らんだ蕾	開花直前	満開期	落花直前
りんご（紅玉）	-4.0℃	-2.5℃	-2.0℃	-1.8℃	-1.8℃

※植物体温度が表2の温度以下に30分以上おかれた場合は危険

2-1 霜害発生前の予防対策

- （1）冷気の停滞は霜害の発生を助長するので、防風林で冷気が停滞するような場所は裾部を刈り込む。
- （2）燃焼で防ぐ場合は周辺環境に十分配慮するとともに、固形燃料や重油、灯油などのばい煙の発生が少ない燃料を使用する。
- （3）土壌が乾燥している際は、散水を行う。散水は日中の温度が高い時間帯に行い、地中へ蓄熱させる。

2-2 霜害発生後の被害軽減対策

- （1）被害を受けた新梢は枯死した部分をせん定する。
- （2）残存花への人工受粉の徹底を図り、結実の確保に努める。
- （3）結実量が少なく強樹勢になるおそれがある樹では、可能な限り着果させる。不定芽などから発生した徒長枝は整理し、翌年の結果枝として利用可能な枝は誘引などを実施する。
- （4）結実量が少ない樹では枝葉が過繁茂になりやすいため、結実量の減少程度や樹勢に応じて施肥量を減らす。
- （5）経過観察をこまめに行い、病害の発生が認められた場合には初期防除に努める。

3 結実対策（マメコバチの放飼と管理）

マメコバチは気温が16℃を超えると活発に活動するとされており、自然条件ではりんごの開花前に活動を始めます。蜜源が近くに無いとエサを探しに巣の周辺から離れてしまいます。マメコバチの活動を開花期にあわせるためには冷蔵保管が有効です。巣の中で成虫が動き始めるとされる4月上旬頃に冷蔵庫に入れ、「発芽後2週間まで」の薬剤散布の2～3日後（4月下旬頃）に出庫します（表3）。

表3 りんごの開花時期とほ場におけるマメコバチの活動時期

	4月上旬	中旬	下旬	5月上旬	中旬	下旬
開花期	← 開花期 →					
自然状態	← 蜜源が無いために移動してしまう →					
冷蔵保存	冷蔵庫 入庫-----出庫 ←-----→					

- (1) スズメやムクドリに捕食されるのを防ぐため、防鳥網を設置します。
- (2) マメコバチの活動範囲は巣から50m程度とされているので、巣の設置位置を考慮する。

マメコバチの増殖・巣の更新方法

筒は3～5年で更新するのが望ましい。以下の方法で更新する。

- ① 古い巣箱から2～3m離して新しい巣箱を設置し、古い巣箱はビニールやむしろで覆う。この際蜂が脱出する穴を数カ所開けておく。
 - ② 新しい巣箱の防鳥網の内側に深さ40cm程度の穴を掘り、土を十分に湿らせる。
 - ③ 開花が終わったら、古い巣箱を撤去する。
- ※開花期間中に天候不順の場合は、人工授粉を行う。

＜加美郡りんご協議会せん定研修会が開催される＞

平成27年1月22日、南山果樹団地を会場に、りんごのせん定研修会が開催されました。

農業・園芸総合研究所園芸栽培部果樹チームの門間上席主任研究員を講師に迎え、わい性樹のせん定実技を行いました。「昨年は花芽形成期間中に日照が多かったため、花芽の着生数は多めなので、樹勢が落ち着いている園地では、せん定の段階でしっかりと花芽の整理を行うように」との指導を受けました。また、土壌条件や有機質肥料を使用した場合の肥効の現れ方などについて指導を受け、参加者は熱心に講師の話聞いていました。会員からも質問が多く出され、活発に意見交換がなされました。

